

文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 (①保修06-13-3/5)

目 的

本プロジェクトでは、劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色や、漆塗装を有する考古資料などの伝統技術及び材料の来歴や劣化に関する情報収集と研究を行う。その上で、文化財修理の施工方法の策定や保存活用を目指すことを目的とする。

成 果

本年度は今期中期計画の3年度にあたり、下記に述べる基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。また、研究会を開催した。

1. 文化財建造物に使用する塗装材料の耐候性向上に向けた基礎実験を進めるとともに、PY-GC/MS分析装置を用いた塗各種修復材料の基礎分析を進めた。さらにこのような調査実績を日光東照宮陽明門や巖島神社反橋、平等院鳳凰堂における塗装彩色修理などの実践的な施工計画に役立てた。
2. 研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積した。さらに伝統材料である各種顔料を塗装彩色修理材料として使用するための分析データ資料化を行った。
3. わが国で使用された伝統技術や材料を理解するため、共同研究の外部資金を導入して京都市平安京跡出土の漆器未製品、鎌倉市大倉幕府跡出土の漆塗籠手、一宮市博物館保管仁王胴具足の分析調査を行った。
4. 「文化財建造物における木彫彩色の保存・修理・資料活用」というテーマで、2013（平成25）年9月26日（木）に第7回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、53名の参加を得た。

論文

- ・北野信彦「文化財建造物における伝統的な塗装材料と施工上の課題」『塗装工学』48-11 pp.120-129 13.10
- ・北野信彦、本多貴之「仁王胴具足にみられる桃山文化期の一塗装技術」『保存科学』53 pp.1-18 14.3
- ・北野信彦、小檜山一良、竜子正彦、本多貴之、宮腰哲雄「桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査（Ⅲ）」『保存科学』53 pp.67-80 14.3

発表

- ・北野信彦、吉田直人、運天弘樹、伊藤利憲、篠塚慶介、酒巻仁一、伊奈仁「桃山文化期の欄間彩色の保存と資料活用に関する基礎的調査」文化財保存修復学会第35回大会 東北大学 13.7.21

研究会

- ・第7回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「文化財建造物における木彫彩色の保存・修理・資料活用」東京文化財研究所 13.9.26

刊行物

- ・『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書 2013年度』東京文化財研究所 200p 14.3

研究組織

- 北野信彦、早川典子、朽津信明、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、(以上、保存修復科学センター)、加藤雅人、山下好彦 (以上、文化遺産国際協力センター)、本多貴之 (客員研究員)